

第 6 回 RD 最終処分場問題連絡協議会の開催結果

■日 時 平成 26 年 2 月 17 日(月) 19:00～21:15

■場 所 栗東市コミュニティセンター 治田東

■質疑の概要

1. 前回の開催結果について

鉛直遮水壁の耐用年数や耐震性について質問があり、耐用年数については年数を断言することは難しいが、少なくとも対策工事終了後も安定化に要すると考えられる5年後までの耐用を求めていること、耐震性については、現位置は地層が安定していて砂層と粘土層がずれるとは考えにくいですが、今後もしっかりモニタリングしていくと回答しました。

2. 平成 25 年度第3回モニタリング結果について

(1) 資料2の「経年変化グラフについて」の記述中、採水方法の注記の表現について、これまでの話合いの経過を知らない方でも理解できるように、採水方法の変更によって重金属等が検出されなくなったものの、廃棄物土中には重金属等が含有されていること、さらに、重金属等が含有されていても地下水に溶出しなければ支障ないことなど丁寧に説明すべきであるという意見が出されたため、再度、表現を検討すると答えました。

(2) 経堂池の現状と国道バイパス開通後の水質について質問があり、現状については水が停滞しプランクトンなどが繁茂しやすくなってCODが高くなっていること、今後については、池の面積減少や国道の路面排水の流入など様々な要因が変化することから予測は困難であると回答しました。

3. 県有地化の状況について

県有地化に関連して、代執行費用の回収状況に関する質問があり、現在までの調査では元社長に財産がないことを確認しているが、今後より厳しく追及していくと回答しました。

4. その他

(1) 「二次対策工事のリスクと対応」について、過去に高アルカリ性のドロドロした浸透水が現れた沈砂池付近での工事の安全性に関する質問があったため、揚水井戸を設置するとともに揚水した浸透水は水処理施設で処理すると回答しました。

(2) 解体工事に伴う騒音について、うるさいがいつまで続くのかとの質問が寄せられたため、大変ご迷惑をかけていますが、解体工事については 2 月末までに終了する予定であると回答しました。

(3) 南側焼却炉基礎撤去後の確認と東側焼却炉基礎砕石撤去後の確認を3月中に実施することを連絡しました。